

## [1] 繊維

12/11 13/12 ◎伸び率10%以上 ●伸び率0～▲10%  
: 天気図マーク: ● ○ ○伸び率0～10% ●伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

- ・ 繊維の国内需要は、長引く不況の中消費が低迷していることから、衣料品分野を中心として引き続き不振でる。
- ・ 輸出に関しては、12年度は数量、金額共に前年より僅かに増加している。しかし、今後は、主力の持ち帰り用の東南アジア向け輸出が頭打ち傾向にあり、これまでのような伸びは期待できない状況である。

#### (2) 生産・設備稼働

- ・ 12年度の繊維工業全体の生産は前年度比▲7.1%、出荷は同▲7.6%、在庫は同▲5.6%と総じてマイナスである（出典：繊維統計）。生産、出荷の減少は、内需不振と東アジアを中心とした生産体制のグローバル化によって国内生産比率が低下する傾向にあることを要因としている。在庫についても、引き続き生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。
- ・ 生産能力はここ5年で3/4程度に低下するなど、一貫して下落傾向にあり、12年度も前年度比▲6.8%程度低下している（出典：繊維統計）。一方、稼働率は低下傾向にあるものの、水準としては大きな変化はない。

#### (3) 企業収益

- ・ 12年度の企業収益は、全体的に引き続き低調であった。売上高、経常利益ともに前年度比マイナスの見込み。しかし、主要合繊、紡績企業においては、収益改善傾向が見られている。

#### (4) 財務

- ・ 全体として企業財務は引き続き厳しい状況にある。
- ・ 主要合繊企業では借入金を減らすなど、財務体質改善への取組を進めている。また、連結決算への対応のために、経営改革に乗り出し、単体中心からグループの総合力を発揮する経営への脱皮を図る動きが、相次いで見られている。

## 2. 設備投資動向

### (1) これまでの設備投資の推移

- ・ 繊維業界全体では、設備投資の実績は平成4年度以降ずっと前年度比割れが継続しており、12年度（実績見込み）も570.1億円（11-12共通企業53社）と、前年度比▲13.5%と大幅に減少している。

### (2) 平成13年度の設備投資計画

- ・ 13年度の設備投資計画額は、559億円（12-13共通企業51社）となっており、10年ぶりに前年度比 +4.1%と増加する見込みである。業種別に見ると、紡績は依然大幅に減少傾向（▲74.7%）にあるが、化学繊維製造業は+24.2%と増加の見込みである。
- ・ 目的別投資内訳を概観すると、全体的には、更新・維持・補修の割合が高い（12-13共通企業51社全体においては36.7%を占める）。業種別に見ると、化学繊維製造業については、生産能力増強と情報投資が増加している。また、紡績業では更新・維持・補修の割合が78.5%と大きな比率を占めており、13年度においては、昨年度はマイナスとなった研究開発投資が増加に転じている。
- ・ 情報化投資は、全体としては3%強（12-13共通企業51社）と規模は小さい。ただし、13年度においての伸び率は福利厚生に次いで大きくなっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向

### (1) 長期資金運用動向

- ・ 13年度の長期資金調達目的における特徴としては、投融資先が、国内関係会社向けから、海外直接投融資へと大きくシフト（海外投融資は昨年度比約3.6倍に増加）していることが挙げられる。

### (2) 長期資金調達動向

- ・ 資金調達方法については、全般的に、13年度も引き続き借入金を減らし内部調達の範囲内で設備投資をする傾向が続いている。

（グラフ1：設備投資の前年比の推移）

